KONICA MINOLTA

適用機種：販売モデルは地域により異なります。

カラー機（CL）	C8100シリーズ
モノクロ機（BW）	---

オペレーションクイックガイド - No. 01 -

基本操作

Ver. 01.00

目次

1 製品構成の確認

2 各部の名称と操作パネル

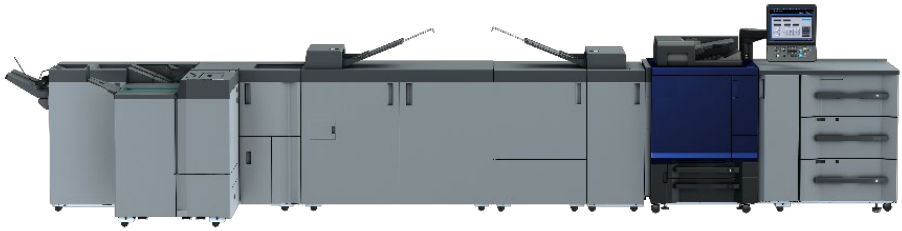
3 電源のON/OFF

4 通紙経路と紙づまり処理

5 消耗品の補給と交換

6 清掃

7 使用環境/本体仕様



1 製品構成の確認

1-1. 本体およびオプション（コントローラー含む）の名称と役割紹介

この章では、設置されている機械構成と簡単な機能について説明します。



❖排紙系オプション

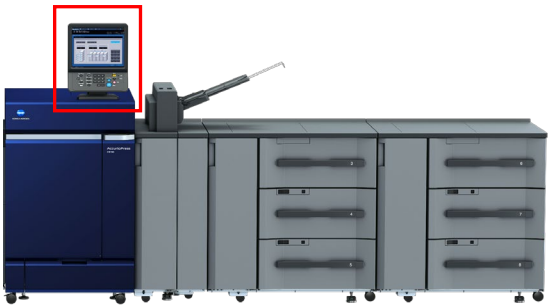
- □ 中継搬送ユニット [RU-518m]
- □ 加湿キット [HM-103]
- □ インテリジェントクオリティオプティマイザー [IQ-601]
- □ 紙面検査ユニット [AI-101]
- □ 紙面検査用中継搬送ユニット [RU-702]
- □ 中継搬送ユニット [RU-510]
- □ 長尺排紙キット [MK-761]
- □ マルチ折りユニット [FD-503]
- □ トリマーユニット [TU-510]
  - └ □ セパレーター [JS-507]
  - └ □ クリーサーユニット [CR-102/CR-103]
  - └ □ トリマーユニット [TU-504]
  - └ □ ミシン目ユニット [PE-101/PE-102]
  - └ □ 長尺搬送ユニット [MK-764]
  - └ □ 屑廃棄ユニット [MK-765]
- □ 大容量スタッカー [LS-507]
- □ 中とじユニット [SD-513]
  - └ □ スクェアフォールドユニット [FD-504]
  - └ □ クリーサーユニット [CR-101]
  - └ □ トリマーユニット [TU-503]
- □ 中とじユニット [SD-506]
- □ ステープルフィニッシャー [FS-532]
  - └ □ 中とじ機 [SD-510]
  - └ □ パンチユニット [PK-525]
  - └ □ ポストインサーター [PI-502]
- □ 大容量排紙トレイ [OT-512]
- □ 排紙トレイ [OT-511]

* 機種、仕向けによって、装着できないオプションや、記載のないオプションがあります。
詳細はHTML UGを参照してください。

1 製品構成の確認

＊ 下記写真は、製品コンフィグ（オプションの組み合わせ）は一例です。

操作パネル



❖本体

☐ C8100

❖給紙系オプション

☐ ペーパーフィーダーユニット [PF-712]
☐ スキャナー付きペーパーフィーダーユニット [PF-713]
☐ 長尺3段給紙ユニット [PF-812]
☐ マルチ手差し給紙ユニット [MB-511]
☐ 大容量給紙ユニット [LU-208/LU-208XL]
☐ 長尺給紙キット [MK-760]
☐ 防湿ヒーター [HT-506/HT-511/HT-515/HT-518]
☐ PFU拡張キット [FA-505]

❖コントローラ系オプション

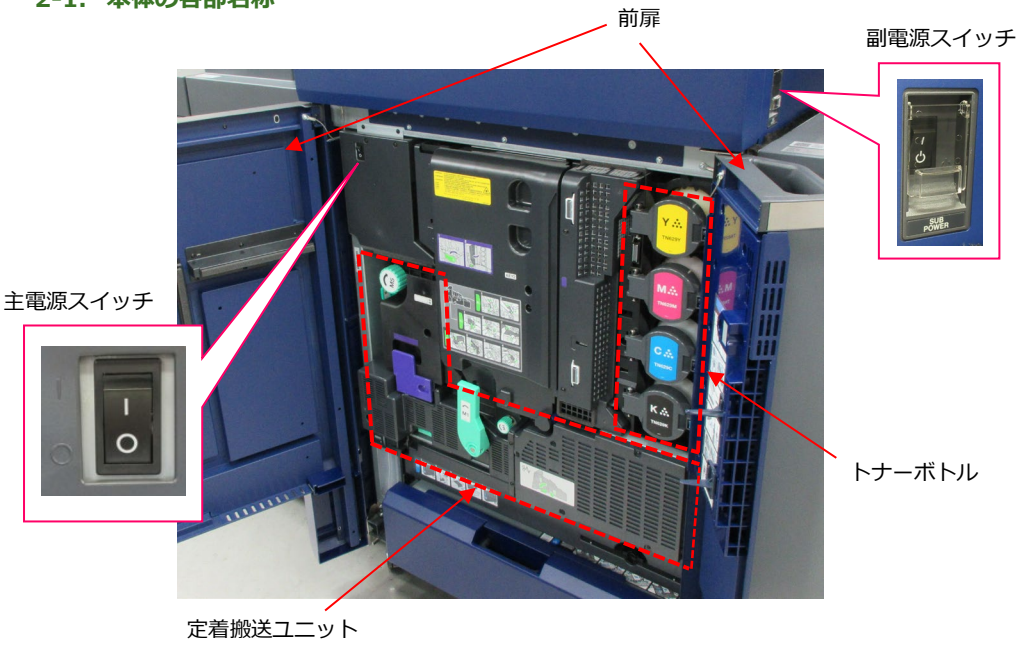
☐ イメージコントローラー [IC-613]
☐ イメージコントローラー [IC-614]
☐ イメージコントローラー [IC-322L]
☐ イメージコントローラー[IC-323]

❖その他オプション

☐ インテリジェントメディアセンサー [IM-101]
☐ インテリジェントメディアセンサー [IM-104]
☐ インテリジェントメディアセンサー [IM-105]
☐ 認証装置 [AU-206]
☐ 状態表示ライト [MK-744C]

2 各部の名称と操作パネル

2-1. 本体の各部名称



2-2. 本体の操作パネル



●パワーセーブ
手動でパワーセーブモードにしたり、復帰したりするときに押します。

●輝度調整ダイヤル
タッチパネルの輝度を調整するときに回します。

●設定メニュー/カウンター
設定メニュー画面やカウンターを表示させるときに押します。

●リセット
設定値等を初期状態に戻すときに押します。

●電源ランプ
主電源スイッチを入れるとオレンジ色に点灯し、副電源スイッチを入れると青色に変わります。

●データランプ
プリントデータ受信中に点滅します。

●ストップ
出力を一時停止したり、機械の動作を中断したりするときに押します。

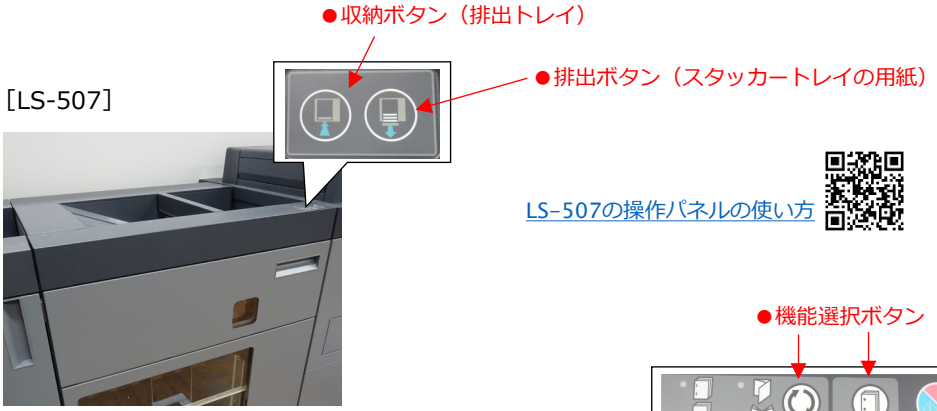
●スタート
動作可能なときは青色、
動作開始が出来ないときはオレンジ色になります。

2 各部の名称と操作パネル

2-3. オプションの操作パネル

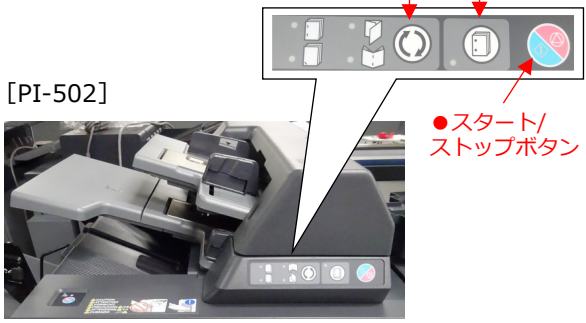
オプションの操作パネルの使い方の詳細については、動画をご覧ください。

[LS-507]



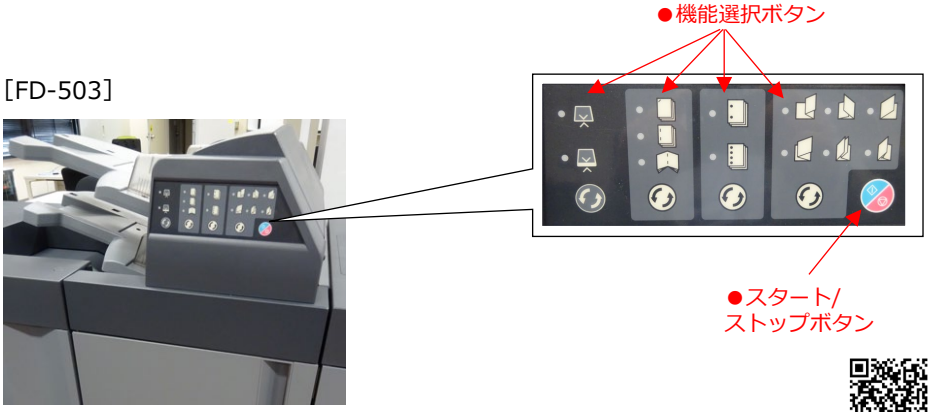
LS-507の操作パネルの使い方

[PI-502]



PI-502の操作パネルの使い方

[FD-503]



FD-503の操作パネルの使い方

3 電源のON/OFF

3-1. 本体

本機には主電源スイッチと副電源スイッチの2つの電源スイッチがあります。
2つの電源スイッチをON/OFFする順番に注意してください。

電源ON

約6分30秒



主電源ON
電源ランプ：消灯⇒オレンジ

副電源ON
電源ランプ：オレンジ⇒青

「ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾒﾃﾞｨｱｾﾝｻｰの準備中です」
「しばらくお待ち下さい」
＊1

電源OFF



副電源OFF
電源ランプ：青⇒オレンジ

「しばらくお待ち下さい」＊

電源ランプ：オレンジ⇒消灯
操作パネルが暗くなる
主電源OFF

＊以下のメッセージが表示されている場合は主電源をOFFしないでください。
データ保存中です
データが破損する可能性があるので、主電源を切らないで下さい
本体パネルとスタートランプが消灯後10秒以上待ってから主電源を切って下さい

3 電源のON/OFF



「お待ち下さい」
「調整中です」

「ウォームアップしています」
「しばらくお待ち下さい」

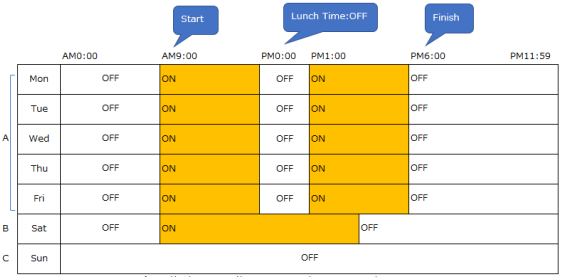
「プリントできます」

＊1：お使いのオプションによって、表示されるメッセージは変わります。

- 主電源ONから、プリントできる状態になるまでは一定の時間がかかります。
  そのため、長時間使用しないとき以外は、主電源はONのままにしておくことをお勧めします。
- 主電源OFF後すぐにONする場合は、必ず10秒以上経過してからONしてください。
- パワーセーブ機能やウィークリータイマー設定をしておくと、副電源のON/OFFを自動で管理し、消費電力を節約できます。詳しくはHTML UGを参照。

参考

- 業務時間に合わせた本機の電源ON/OFF設定イメージ



A:月～金： 午前9時にON、
昼休みOFF/午後1時にON、
午後6時にOFF

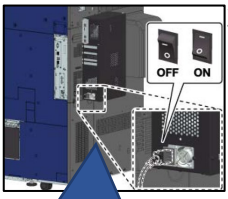
B:土：午前9時にON、午後3時にOFF

C:日：終日OFF

- パワーセーブ中のジョブ出力
  パワーセーブ機能を設定し、消費電力を抑えている状態で、プリンタドライバーからジョブを投げると、本機がジョブを認識して省電力モードを解除し、出力を開始します。

3 電源のON/OFF

3-2. KM製コントローラーの電源ON/OFF（IC-613/614）

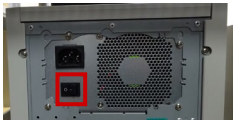


コントローラーは本体の背面にあります。

次の順でON/OFFします。

1. 本体の電源をON（又はOFF）
2. コントローラーの電源をON（又はOFF）
   - 本体の電源の入れ方は**3-1. 本体**を参照。
   - 操作パネルに「プリントできます」が表示されたら、電源をONしてください。
   - 本体の電源が完全に切れてから、コントローラの電源をOFFしてください。

3-3. Fieryコントローラーの電源ON（IC-322L/323）



次の順でONします。

1. 主電源（背面：赤枠）をON
2. 電源ボタン（LCDパネル部の側面：赤丸）をON



- 主電源は、通常は「ON」のままで大丈夫です。
- 長期間（たとえば1週間以上）使用しない場合は、主電源をOFFしてください。

3-4. Fieryコントローラーの電源OFF（システム終了）（IC-322L/323）



1. LCDパネルの右上端をタッチします。電源関係の画面が表示されます。
2. ［システム終了］を押します。



5つのボタンが表示されます。それぞれのボタンの説明は、下の表をごらんください。
＊バージョンによって表示は異なります。

No.	ボタン名	概要
1	システム終了	コントローラーの電源をOFFします。（FieryシステムとWindowsサーバー（OS）、両方の電源をOFF）
2	システムリブート	Fieryシステムだけを再起動します。Windowsサーバー（OS）は再起動しません。
3	サーバー再起動	FieryシステムとWindowsサーバーの両方を再起動します。
4	明るさ	画面の明るさを変更できます。
5	ディスプレイ再起動	ディスプレイのみを再起動します。

3 電源のON/OFF

3-5. 使ってほしい便利な機能

KM製及びFieryコントローラーの電源やジョブ出力に関する便利な機能があります。

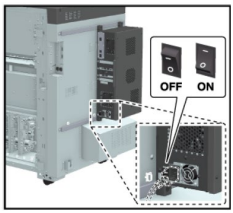
✓：機能有り

名称	説明	KM製	Fiery
本体/コントローラーの電源連動設定	本体とイメージコントローラーの電源を連動させるかを設定します。	✓*1	✓*2
翌日継続設定	本機の副電源をOFFしたときに、進行中のジョブや出力予約していたジョブを一時保存し、次回起動時に継続して実行します。	✓*1	-

*1：管理者設定から設定できます。詳細はHTML UGを参照。
*2：Command WorkStation > Configureから設定できます。

3-6. オプション

コントローラー以外に、電源のON/OFFが必要なオプションにはAI-101があります。



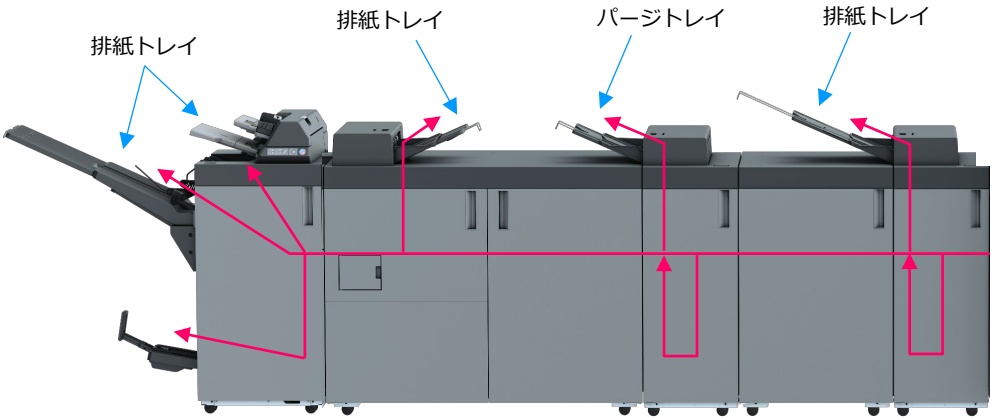
AI-101の電源は次の順でONします。

1. 本体の主電源と副電源をON
2. AI-101の電源をON
   - 本体の電源の入れ方は**3-1. 本体**を参照。
   - AI-101の電源はIQ-601の背面にあります。

＊本体の副電源スイッチと連動しているため、通常はOFFにする必要はありません。

4 通紙経路と紙づまり処理

4-1. 本体通紙経路



4-2. 紙づまり表示の見方

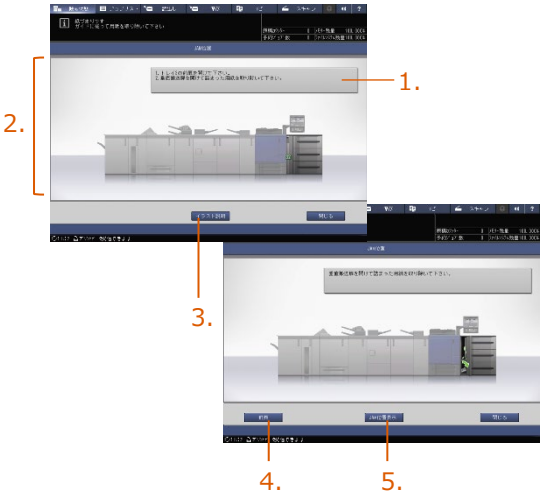
- 印刷／コピー中に紙づまりが発生すると、［紙づまりです］というメッセージと紙づまりの箇所が、操作パネル（画面）に表示されます。

- 画面の指示に従って、紙づまりを処理してください。

紙づまり処理の仕方

※動画内の本体等が本冊の対象機種と異なる場合がありますが、紙づまり処理の仕方は同じです。

［JAM位置］画面 例



1. メッセージ表示部
具体的な紙づまり処理方法が表示されます。

2. ジャム番号/作業手順 イラスト表示部
紙づまり位置や作業手順等を表示します。

3. ［イラスト説明］
このキーを押すと、最優先で処理する方法を図解で説明する画面が表示されます。

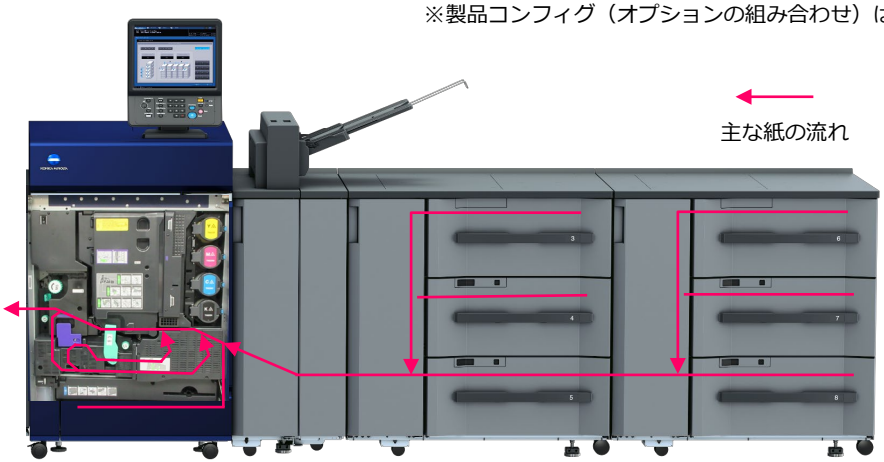
4. ［次頁］
このキーを押すと、紙づまり処理手順の次のページを見ることができます。

5. ［JAM位置表示］
このキーを押すと、［JAM位置］画面に戻ります。

［イラスト説明］画面 例

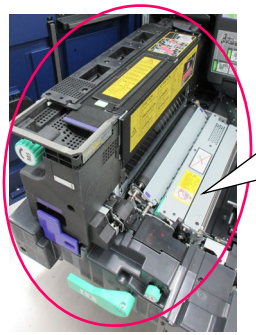
4 通紙経路と紙づまり処理

※製品コンフィグ（オプションの組み合わせ）は一例です。

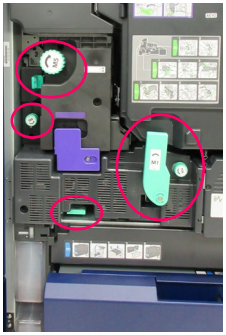


4-3. 紙づまり処理をするときの留意点

- 紙づまりを処理するときは、主電源スイッチ/副電源スイッチをONにしたままにしてください。電源をOFFすると、トレイや定着搬送ユニットを引き出すことができなくなります。
- 紙づまり処理の際は、緑色の部分（レバー、つまみなど）を操作して、操作パネルに表示された手順に従い、紙づまりを処理します。







- 定着部は高温になっています。操作パネルおよび注意ラベルの記載に従って、紙づまり処理を行ってください。

- 紙づまり処理の際は、緑色の部分（レバー、つまみなど）を操作して、操作パネルに表示された手順に従い、紙づまりを処理します。
- 自動パージ機能動作中は、本体やオプションの扉を開けないようにしてください。

自動パージ機能とは？

紙詰まりが発生した場所から後ろのプリント用紙が更に紙づまりしないよう、最寄りのサブトレイ等に強制排紙させる機能です。パージ動作中、機械の電源は、ONにしたままにしてください。

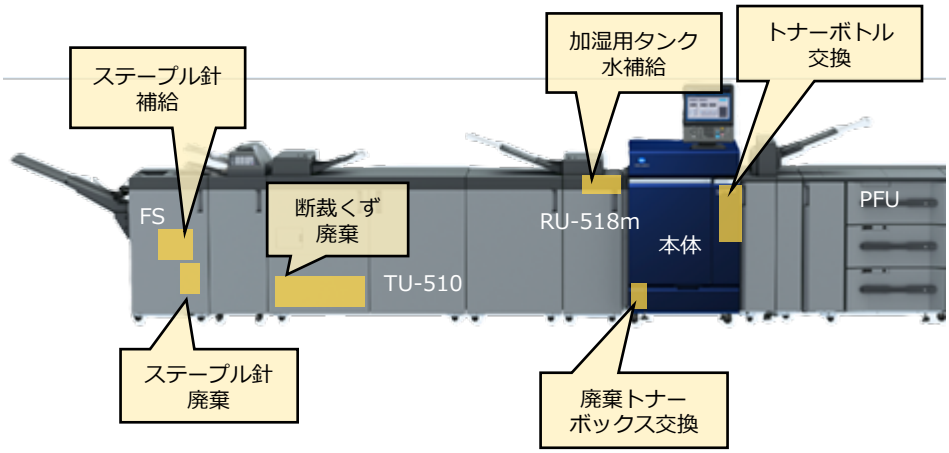
5 消耗品の補給と交換

5-1. 消耗品とは

消耗品とは、本機において補給/廃棄/交換等の処理が必要な部材のことです。消耗品の処理には主に以下のようなものがあります。

トナーボトル交換／廃棄トナーボックス交換／ステープル針補給・*廃棄／
加湿用タンク水補給／断裁くず廃棄

＊ステープル針廃棄：冊子の厚みに合わせてステープル針をカットした際に発生する針くず廃棄



5-2. 消耗品交換手順（動画）

下記3つの交換手順を代表として動画で説明します。

トナーボトルを交換する

廃棄トナーボックスを交換する

＊廃棄トナーボックスの処理については、
サービス実施店にお問い合わせください。

ステープル針を補給する

※各消耗品の交換手順については、次項の **5-3. 消耗品の補給/交換手順** で確認できます。

※動画内の本体等が本冊の対象機種と異なる場合がありますが、交換手順は同じです。

5 消耗品の補給と交換

5-3. 消耗品の補給/交換手順

1. 消耗品の交換メッセージを確認する

タッチパネル左上に交換メッセージが表示され（①）、［補給/廃棄部材］の該当の消耗品名が黄色で表示されます（②）。

【例】
メッセージ：［プリントできます 廃棄トナーボックスを交換して下さい］

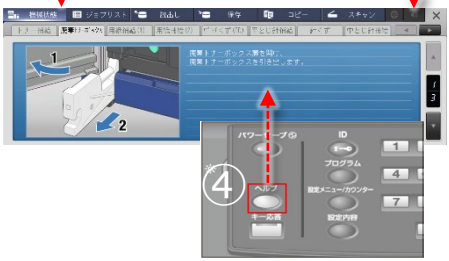
補給/廃棄部材表示：［廃棄トナーボックス］



2. ヘルプ画面の表示

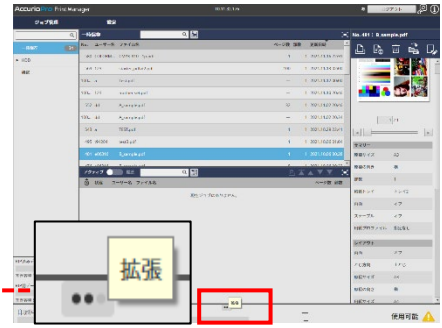
下記3箇所のいずれかを押下すると、同じヘルプ画面が表示されます。

- 補給/廃棄部材表示部の該当消耗品表示部（②）
- タッチパネル右上の”？”ボタン（③）
- 操作パネル（ハードキー）のヘルプボタン（④）



5-4. AccurioPro Print Managerでの確認

AccurioPro Print Manager画面において、［拡張］ボタンを**2回**押すと、消耗品情報を確認することができます。消耗品アイコンにマウスを合わせると、状態の確認ができます。



2回押下する



6 清掃

6-1. 各部の清掃

安定した出力を実現するために、毎日、本体の電源をONにする前に以下の箇所を確認し、必要に応じて清掃を行ってください。

⑤ IQ-601の清掃（動画）

清掃タイミング：操作部に清掃メッセージが表示されたとき

清掃用具：備え付けの清掃治具

IQ-601の清掃

③ PF-712/PF-713/PF-812の清掃（動画）

清掃タイミング：紙詰まりの頻発やプリント用紙が汚れるとき

清掃用具：乾いた布

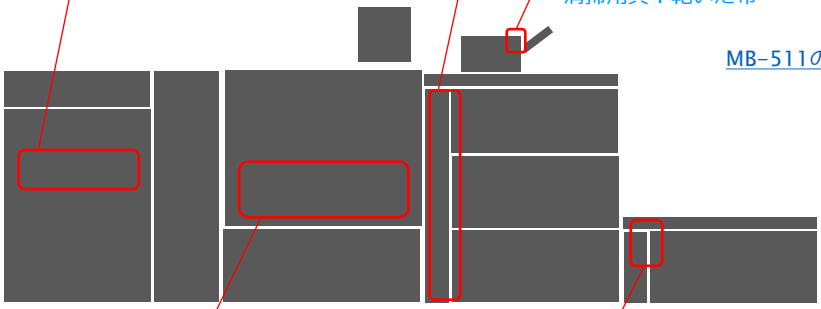
PF-712/PF-713/PF-812の清掃

② MB-511の清掃（動画）

清掃タイミング：紙詰まりの頻発やプリント用紙が汚れるとき

清掃用具：乾いた布

MB-511の清掃



本体

① 両面部の清掃（動画）

清掃タイミング：紙詰まりの頻発やプリント用紙が汚れるとき

清掃用具：乾いた布

両面部の清掃

④ LU-208/208XLの清掃（動画）

清掃タイミング：紙詰まりの頻発やプリント用紙が汚れるとき

清掃用具：乾いた布

LU-208/208XLの清掃

＊上記、本体/オプション名と、動画内の本体/オプション名が異なる場合がありますが、清掃手順は同じです。

＊上記以外の清掃は、HTML UGをご参照ください。

7 使用環境/本体仕様

7-1. 使用環境

本機の性能を維持し、快適に使用するため、本機の使用環境及び用紙や消耗品の保管環境を守ってください。

［温度と湿度］



- 本機の設置場所の温度と湿度を確認してください
  ■推奨環境
  室内温度 ：21℃～26℃
  湿度　　：40%RH～60%RH

［用紙や消耗品の取扱い］

- 用紙や消耗品は以下のような場所に保管してください。
  ■直射日光が当たらない場所
  ■本機や冷暖房器具から遠い場所
  ■湿度が低い場所
  ■用紙を水平に置ける安定した場所
  ■ほこりや紙粉が少ない場所

- 用紙は、なるべく包装紙に包まれた状態で保管してください。
  一度開封した場合も、残りの用紙は包装紙で包んで保管することを
  おすすめします。

- 消耗品は、梱包箱に記載されている保管条件に従って管理して
  ください。

- 用紙や消耗品は、使用状況に応じて常に予備を準備しておくことをおすすめします。

［設置面］

- 本機を設置する床面は水平を保ってください。

- 設置場所を変更する場合は、必ずサービス実施店にお問い合わせください。

7 使用環境/本体仕様

7-2. 本体仕様

名称	AccurioPress C8100
形式	コンソールタイプ
カラー対応	フルカラー
印字方式	4連ドラムタンデムレーザー静電複写方式
感光体	OPC
現像方式	乾式2成分
転写方式	ベルト転写／ローラー転写
定着方式	ベルト定着
階調／表現色	256階調 / 1,670万色
ウォームアップタイム	6分30秒以下（21 ℃ ～ 26 ℃、40%RH ～ 60%RH、通電時定格電圧）
連続プリント速度	カラー：100面 / 分（A4、8.5 x 11） モノクロ：110面 / 分（A4、8.5 x 11）
電源	単相 AC 200 V/25 A、50/60 Hz
最大消費電力	5,000 W ※専用電源コードを装備しているオプション以外の装置のシステム値
質量	345kg（本体のみ）
大きさ	800 mm（幅）*1 x 1,138 mm（奥行）*2 x 1,210 mm（高さ）*3 *1：突起物を除く。 *2：背面ダクトを含む。 *3：操作部を除く。
機械占有寸法	4,681 mm（幅）*1 x 1,969 mm（奥行）*1*2 （本体 + ペーパーフィーダーユニット PF-712 + 中間搬送ユニット RU-518m + インテリジェントクオリティオプティマイザー IQ-601 + フィニッシャー FS-541） *1：機械両側面に100 mm / 3.94" 以上のスペースを確保。 *2：機械前側に631 mm / 24.84"（定着搬送ユニットを引出したとき）、背面側に背面ダクトから200 mm / 7.87" のスペースを確保。

＊ 詳細はHTML UGをご参照ください。

© 2026 KONICA MINOLTA, INC.